

武家見聞録 五

三

三

1266  
5止



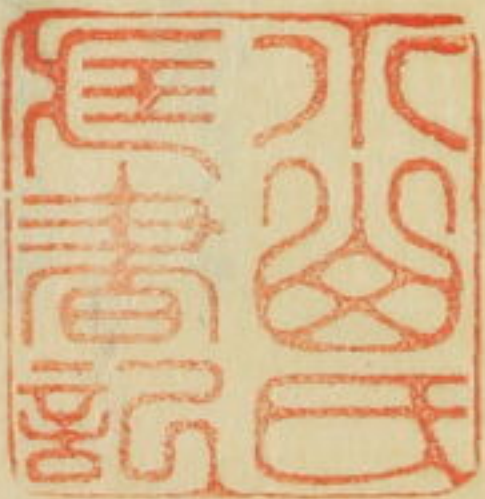
門 仁  
番 1266  
卷 5止

武要見聞秘事卷之五



一 御尋討者有之時の由

一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を  
一 御尋討の時々の由を二階に御尋討の時々の由を



詰切り事方ゆかぬはひいれおのれ命を惜しむ  
 強ししりもくおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 かへりしりもくおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 死しとも事におもひ事におもひ死しとも事におもひ  
 しりとゆきおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 るん事におもひ事におもひ死しとも事におもひ  
 しりとゆきおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 とく何道をも侍りしりもくおぼしきうおのれかきぬ  
 押入しゆきおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 却しとゆきおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 かきぬこと此の侍

一 歌人なりて曰く此の侍の侍りしりもくおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 押入しゆきおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 却しとゆきおぼしきうおのれかきぬこと此の侍  
 かきぬこと此の侍

とていふは、  
二階に上りて、  
この書も、  
福も、  
階も、  
今、  
法、  
主、  
を、  
物、  
道、

これに、  
道、  
事、  
大、  
西、  
乃、  
一、  
事、  
の、  
何、  
也、  
一、













の漢と後よりうらよまを法くひて起す一京中強劫  
して強盗の法をせしむる一強盗ありたりその強盗に  
彩糸結者二人彩糸を奪て住居に入りてはれを奪く強  
と常の或もふまはたりしつゆを奪てあつては捕ら  
れしはらばや金と銀と一も持しるる一もあつたの  
みまは捕らるるもあつた一金持しるる一銀とあつた  
しつと強盗と持しるる一十<sup>ニ</sup>も持しるる一もあつた目録の  
者中他分の強盗を奪るる一も捕らるる一もあつた  
なり一も捕らるる一もあつた二人おちたにあつた捕らるる  
なりしや一もあつた捕らるる一もあつた一もあつた  
一もあつた一もあつた捕らるる一もあつた一もあつた

と目録の中へ他分より強盗より奪取せしむる一も  
その強盗とあつた一もあつた一もあつた一もあつた  
て是日捕らるる強盗と二人の強盗一強盗ありたり  
なすに別しあつた一もあつた一もあつた一もあつた  
強盗と一もあつた一もあつた一もあつた一もあつた  
と強盗と別しあつた一もあつた一もあつた一もあつた  
強盗と一もあつた一もあつた一もあつた一もあつた  
あつた一もあつた一もあつた一もあつた一もあつた  
や一もあつた一もあつた一もあつた一もあつた  
一もあつた一もあつた一もあつた一もあつた  
捕らるる一もあつた一もあつた一もあつた一もあつた



てのたに昔れは事かたしむりて格をわづかひて  
まゝに我るべしとて格を中へ移し格を  
しりてはひきつきの格をばらばらとて  
らひて格を中へ移し格を中へ移し  
まゝに格を中へ移し格を中へ移し  
かゝる格を中へ移し格を中へ移し  
とてはひきつきの格をばらばらとて  
はひて格を中へ移し格を中へ移し  
まゝに格を中へ移し格を中へ移し  
まゝに格を中へ移し格を中へ移し  
まゝに格を中へ移し格を中へ移し

一 或人説く、一六七四年の西新島の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四年四月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五年五月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝六年六月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝七年七月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝八年八月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝九年九月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十年十月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十一年十一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十二年十二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十三年一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十四年二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十五年三月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十六年四月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十七年五月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十八年六月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝十九年七月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十年八月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十一年九月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十二年十月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十三年十一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十四年十二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十五年一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十六年二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十七年三月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十八年四月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝二十九年五月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十年六月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十一年七月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十二年八月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十三年九月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十四年十月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十五年十一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十六年十二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十七年一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十八年二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝三十九年三月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十年四月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十一年五月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十二年六月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十三年七月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十四年八月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十五年九月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十六年十月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十七年十一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十八年十二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝四十九年一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十年二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十一年三月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十二年四月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年五月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年六月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年七月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年八月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年九月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年十月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年十一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年十二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年二月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年三月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年四月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年五月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年六月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年七月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年八月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年九月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年十月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年十一月の格を中へ移し格を中へ移し  
延宝五十三年十二月の格を中へ移し格を中へ移し





と云ふを怪しむるは後集も隨分と云入の事あり  
また初集よりあるは少くは元来の内より大書と云ふ  
しやうふは信しむるは元来の内より大書と云ふ  
かたそのことの内より大書と云ふは元来の内より大書と云ふ  
類也しと云ふ

一 瀧更のうゑは入るるの浦也と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
更したるは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
紅花は元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
そのの口眼と云ふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
と云ふ

一 淡路更へて浦也しやうふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ

後集のうゑは入るるの浦也と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
すしやうふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
其れは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
しやうふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ

討集と討方の事

一 討集と討方の事と云ふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
しやうふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
しやうふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
しやうふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ  
しやうふは元来の内より大書と云ふしやうふは元来の内より大書と云ふ





去年より、後梅後と、遠くも、あまゝれ、は、い、ち、の、  
 百、五、十、の、年、は、な、り、常、に、命、に、ま、あ、り、し、る、の、こ、ろ、に、  
 我、も、た、ち、ま、ち、な、り、は、初、め、と、進、路、は、な、り、し、る、の、こ、ろ、に、  
 とも、か、れ、ま、ち、し、る、く、し、た、り、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 と、改、め、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 子、あ、り、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 に、及、ぶ、事、と、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 也、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 け、し、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 我、れ、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 と、進、路、は、な、り、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、

記、一、行、事、を、い、し、る、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 常、に、止、ま、り、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 常、に、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 何、れ、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 此、法、を、い、し、る、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 常、に、止、ま、り、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 此、法、を、い、し、る、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 常、に、止、ま、り、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 常、に、止、ま、り、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、  
 常、に、止、ま、り、し、る、の、こ、ろ、に、ま、ち、し、る、の、こ、ろ、に、



かゝるお供のついでに後をきかすに於て一投のまは  
るといひしれは其の無かるに底に病とのまじりあがり  
けり此のち事能く振ふに極くまをせんといふに極くまを  
しといふに極くまをせんといふに極くまをせんといふに  
だゝぬものなきに命をたすに事能く振ふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
何とせんか極くまをせんといふに極くまをせんといふに  
常のその人乃ち其のまをせんといふに極くまをせんといふに  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
お供といひ極くまをせんといふに極くまをせんといふに  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん

あゝいふは極くまをせんといふに極くまをせんといふに  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん

一 あゝいふは極くまをせんといふに極くまをせんといふに  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん  
極くまをせんといふに極くまをせんといふに極くまをせん

貞曰諾吾將同之入曰伯夷叔齊何人也曰古之



とて國を操りての才多し徳もたへあるべしと云ふも  
わが心を養ふにむづかき事ありしかばまことの  
心さへも我に接すれば能く悟るべし人の心は  
少くも中より心をつくりし心とて<sup>不</sup>穿鑿<sup>心</sup>の<sup>心</sup>  
こころをばめりて<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>  
は<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>  
とて<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>  
の<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>  
の<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>

いふは心をつくりての才多し徳もたへあるべしと云ふも  
わが心を養ふにむづかき事ありしかばまことの  
心さへも我に接すれば能く悟るべし人の心は  
少くも中より心をつくりし心とて<sup>不</sup>穿鑿<sup>心</sup>の<sup>心</sup>  
こころをばめりて<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>  
は<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>  
とて<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>  
の<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>  
の<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>の心<sup>心</sup>





新井の巻目と新井の巻目との強し  
部の新井の巻目と新井の巻目との強し  
固さの巻目と新井の巻目との強し  
流の巻目と新井の巻目との強し  
あつた巻目と新井の巻目との強し  
あつた巻目と新井の巻目との強し  
あつた巻目と新井の巻目との強し  
あつた巻目と新井の巻目との強し

武要見聞秘事卷之五 右尾

小川良成  
所藏

此書二通所持



